

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・学力を定着させるために、個に応じた繰り返し学習や振り返り学習等を取り入れた授業づくりを行う。	中間評価		最終評価	
		・ユニバーサルデザインを意識した教室環境づくりを行う。				

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<p>学 読書や音読に意欲的に取り組んでいる児童が多い。</p> <p>学 カタカナと漢字の書き取りが定着していない児童がいる。</p> <p>学 「て」「に」「を」「は」などを正しく使い、文章を書くことが定着していない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・形の整った正しい文字を丁寧に書くこと。 ・「て」「に」「を」「は」や読点などを正しく使い、短い文章を書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字のミニテストに継続して取り組み、間違った漢字の復習を丁寧にさせる。 ・漢字ドリルの学習では、間違えやすいところを全体で確認し、空書きとなぞりをした後を書く練習をさせる。 ・毎週日記の宿題に取り組み、正しい文章が書けるよう継続して指導していく。 		
	算数	<p>学 基本的なたし算やひき算を正確に計算することのできる児童が多い。</p> <p>学 文章問題に取り組む際の立式を苦手とする児童がいる。</p> <p>学 立式の根拠や計算の仕方を分かりやすく説明する力が全体的に不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を理解し、正確に立式すること。 ・立式の根拠や計算の仕方を分かりやすく説明すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文に線を引きながら、問題の場面を正確に把握させる。 ・立式につまずいた際は、具体物や半具体物を使ったり、問題の場面を図や絵に表したりして立式をさせる。 ・分かりやすく説明をできている児童のノートを例として全体に取り上げる。 ・ペアやグループで説明をし合う時間を設け、説明をしたり、聞いたりすることに慣れさせていく。 		
3	国語	<p>調 どの内容においても正答率が全国平均を上回っている。特に「ものがたりをよみとる」、「読むこと」、「読む能力」といった観点の数値が高いことから、読解力が高い児童が多くいる。</p> <p>調 「かん字をかく」や「おはなしをつくる」のポイントが他の内容と比べると低い。</p> <p>学 読書が好きな児童が多くいる。また、音読の様子などを見ると、多くの児童が意欲的に活動している。しかし、中には声の大きさが小さく、音読に自信のない児童も見受けられる。</p> <p>学 形の整った字を書くことや、作文などの文章を書くことが苦手な児童が何人か見受けられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・形の整った正しい漢字を書くこと。 ・自分の思いを正しい構成を意識して文章にすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の学習では、「とめ・はね・はらい」を意識させるため、全児童に新出漢字の担当を決め、発表の場を設ける。 ・既習漢字は文字のみを覚えるだけではあまり定着しないので、文章を書く際に積極的に使わせるようにする。 ・文章を書く際に、「はじめ・中・おわり」の文章構成を考えさせてから、書くよう指導する。 ・日記の宿題に取り組み、自分の思いを文章にすることを繰り返し指導していく。 		
	算数	<p>調 どの内容においても正答率が全国平均を上回っている。特に「時ごとと時間」では、10ポイント以上上回っている。一方、「長さ・かさ」は全国平均を上回っているものの、正答率は70.3ポイントとやや低い。「かけ算」も全国平均とさほど変わりがなく、課題のある児童がいる。</p> <p>学 「時ごとと時間」の学習に関しては、時計を日常的に見ている児童が多くいることから、問題に対する苦手意識がある児童は少ないように感じる。一方、九九の定着が十分でない児童がいるので、丁寧に指導をしていく必要があると感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるものの長さや量に当てはまる単位を答えることを課題にしていることが多い。 ・かけ算九九の定着が不十分の児童がいる。 ・かけ算の文章問題で、乗数と被乗数の違いが分からず、立式に悩んでしまう児童が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習したことを日常生活の中で活用させ、長さやかさの量感をつかませるために、実物を測定する活動を積極的に行っていく。 ・かけ算九九は宿題等で取り組み、繰り返し学習する中で定着を図る。また、かけ算を使う単元(わり算等)の前に、補充プリント等に取り組みさせる。 ・文章問題では、分かっていることや聞かれていることに下線をひかせ、演算決定をしやすくするよう指導する。 		

4	国語	<p>調領域「読むこと」の正答率は全国平均を大きく上回った。特に、「場面の様子の読み取り」の設問は大きく上昇した。</p> <p>調「書くこと」の領域は目標値をやや下回っている。中でも「指定された長さで文章を書く」や「書こうとすることの中心を明確にして文章を書く」が課題である。また、「国語辞典の使い方の理解」の誤答が多くみられた。</p> <p>学提出される課題の状況からみると丁寧に文字を書く習慣ができていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指定された文字数で文章を書くこと。 始め、中、終わりを意識して中心を明確にして文章を書くこと。 国語辞典を使って意味調べをすること。 	<ul style="list-style-type: none"> まずは楽しく書くことができるように、50マス作文から字始め、100マス、150マス、200マスと簡単な作文からできるようにする。 始め、中、終わりを意識して作文指導を行う。 単元の初めには意味調べの時間を設けたり、日常的に国語辞典・漢字辞典を手に届くところに置いておいたりするなどの学習の機会を意図的に設ける。 		
	算数	<p>調どの領域も全国平均を大きく上回り学力が定着している。</p> <p>調領域「数と計算」の10000より大きい数での「相対的な数の大きさ」や「数直線に示された数の読み取り方」は目標値と同じ程度の数値である。</p> <p>学全体的に学習意欲が高く、繰り返し学習をしてきた計算問題は自信をもって学習に取り組んでいる。しかし、自分の考えを数直線で表したり、式で表したりすること、またそれを自分の言葉で説明することに自信のない児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相対的な数の大きさを理解すること。 数直線に示された数の読み取り。 自分の考えをノートに式、図、言葉を使って表すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 数の読み取りは1目盛を意識させ、なぜそうなるのかを明確にして指導をする。 自力解決の時間を確保し、自分の考えを図や言葉でまとめさせ、ICTを活用してまとめ方を全体で共有する。 		
5	国語	<p>調「読むこと」の領域の正答率は全国平均を大きく上回った。特に「物語の内容を読み取る」「説明文の内容を読み取る」領域は正答率が高い。</p> <p>調漢字の読み書きの正答率は全国平均と比べても非常に高い。</p> <p>調「書くこと」の領域に課題が見られる。特に意見文を書く問題は正答率が低く、区の平均を大きく下回っている。</p> <p>学文章を読んで、内容を理解する力はある。しかし、読み取った内容に対して、根拠をはっきりさせて自分の考えを書くなどの活動は、何を書いているのか分からない児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 根拠をはっきりさせて自分の意見を書く。 事実と考えを分け、起承転結を意識して文章を書く。 国語への関心・意欲が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭括型、尾括型の文章を意識した上で、自分の考えとその理由や説明の部分に分けて書かせる。 作文指導では、「題材探し」、「構成メモ作り」などのスモールステップを意識して書かせるようにする。 作文を書いたり、自分の意見を書いたりした際には、ペアやグループで積極的に交流させ、互いに評価し合うことで、学習への意欲を高める。 		
	算数	<p>調領域「数と計算」では全国を大きく上回り定着している。</p> <p>調領域「図形」では全国平均を下回り、全体的な底上げが必要である。特に「面積」「垂直・平行と四角形」「折れ線グラフ」について理解を深める必要がある。</p> <p>学提出される課題等を見ると、基本的な計算が定着していない児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 正確に立体を作ったり作図したりすること。 算数の公式等の定着が図られていない。 計算問題でのケアレスミスが多い。 面積の見えない部分を考えたり、変化を考えながら作成する折れ線グラフを書いたりすること。 大きな数の計算や、わり算など、基本的な計算ができていない児童が見られるため、全体的な定着が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の学習では授業時間内に繰り返し作図の学習を取り入れて定着を図る。 掲示物などを活用し、公式等を定着させる。また、授業の導入で公式を確認する時間を設ける。 繰り返し計算ドリルやプリントを活用し、単元が終わった後も復習できるようにする。間違いがあった場合はその場で間違いを直す。 		
6	国語	<p>調領域「読むこと」の正答率は、全国平均を上回った。特に「説明文の内容を読み取る」は全国平均を10ポイント上回り、定着している。</p> <p>調「言語についての知識・理解・技能」は全国平均を下回り、全体の底上げが必要である。特に「漢字を書く」のスコアが低く、定着を図る必要がある。</p> <p>学字形を意識して、正しく文字を書くことに課題のある児童が多い。漢字の読み書きや慣用句、熟語の意味などが十分に定着していない状況が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 読書を好む児童が多く、その成果として読解力が身に付いている。今後は、好きな分野だけでなく多くのジャンルの本を読んで知識、語彙力に繋げたい。 日常的な会話の中でも、正しく言葉を活用することができていない。 正しく漢字を覚えて書くことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせ集会で下学年に本を読む際、自分の好きな本だけでなく、相手が好みそうな本を選ぶよう指導する。また、授業でおすすめの本紹介をした際、実際に友達がすすめた本を読み合う活動を取り入れ、多くのジャンルの本を読む機会を設ける。 国語に限らず、授業中に児童が発表する際や、児童の発言を板書する際、正しい敬語で提示し、児童が正しく言葉遣いができるよう指導を行う。 漢字を正しく書く力を高めるために、毎週漢字小テストを実施し、不合格の場合直し・再テストを実施し、定着を図る。また、週末には物語作りを課題に出すことで、正しい文章を書く力を身に付けさせる。 		

	算数	<p>調領域「量と測定」では全国を大きく上回っており、定着している。</p> <p>調「量と測定」「図形」が全国平均に近い。定着を確実にするために全体的な底上げが必要である。特に「面積」「グラフ」についての理解を深める必要がある。</p> <p>学提出されルカ大刀を見ると、基本的な計算が確実に身につけていない児童が少数だけが見られる。また、時間が経つと面積の公式などを忘れていた児童も見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 面積や折れ線グラフなど、視覚効果の高い領域に課題がある。 大きな数の計算やわり算など、基本的な計算ができていない児童が見られるため、全体的な定着が必要である。 単元学習終了後、時間が経つと正答率が下がることから、定着を確実にする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形や量と測定の学習では ICT 教材を活用して、全員が視覚的にも理解しやすいように授業を展開する。 学力を定着させるため、計算ドリルやプリントを活用し、単元が終わった後も振り返りできる機会を設定する。 問題解決型学習に力を入れ、答えに至る過程を大切に授業を行う。 		
	音楽	<p>学単元毎に興味・関心をもって学習に取り組むことができている。特に、鍵盤、リコーダー等を使った器楽の演奏にはできるようになるまで、進んで取り組む児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの単元で学習したことを積み重ねて、次の学習に生かしていくということがまだ不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の学習の記録の積み重ねが自分でも分かるように、ワークシートの使い方や保存の仕方を工夫し、必要に応じて学習ファイルを振り返りができるようにする。 		
	図工	<p>学意欲をもって活動に取り組んでいる児童が多い。題材のテーマに沿って、自分なりの表し方を考えようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意欲をもって取り組み、自分なりの工夫を表現の中に取り入れる児童の姿も見受けられるようになったが、表面的な表現に留まってしまうことがあり、課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かした題材に取り組み、技能的な力を身に付けるとともに、様々な材料体験等を通して、発想や構想を広げ、自己の表現を深められるようにする。 		
	特支	<ul style="list-style-type: none"> まなびの教室利用児童の実態を的確に把握し、低学年は特性に応じたベースアップを中心に、中学年、高学年は学年の学習や生活に適応しやすい指導を行う。また在籍学級での合理的配慮、ユニバーサルデザインの視点を各学級担任とともに考える 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年は課題の把握に努める。 今年度は低学年が多く、コミュニケーションや基本的な学習姿勢に課題のある児童が多い。 高学年は書字に課題のある児童が多く、学習に支障がでている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習や人間関係づくりの基礎となる言語理解力を伸ばし、相手を意識した関わりを育てる。 絵カードや表情カード、気持ちよくなる言葉掛けなどを視覚的に理解しやすいよう工夫する。 書字の基礎となる手先の巧緻性や眼のトレーニングを行う。 		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。